

令和2年度  
エネルギー研究教育機構  
博士課程学生支援プログラム

募 集 要 領



令和2年6月

## 1. プログラムの目的

エネルギー研究教育機構（以下「本機構」という。）は、九州大学のアクションプランに基づき設置され、人文社会科学から自然科学までのあらゆる分野の優れた研究者により地球規模の課題となっているエネルギー問題を克服し、持続発展可能な未来型エネルギー社会を実現するため、学際融合、そしてエネルギー研究教育におけるワンストップ・ソリューションの具現を目指している。

本プログラムは、未来エネルギー研究の若手登竜門として、未来のエネルギー研究を担う博士課程学生の支援・育成・発掘を目的とするものである。

## 2. プログラムの詳細

以下5分野に係る研究課題

- 分野①：エネルギーテクノロジーに関する研究
- 分野②：エネルギーシステムとマネジメントに関する研究
- 分野③：エネルギー由来の環境問題に関する研究
- 分野④：エネルギー経済・社会・ポリシーに関する研究
- 分野⑤：その他エネルギー問題に関わる分野

※本プログラムは「エネルギー」に係る、人文社会科学系から自然科学系までの全ての分野の研究課題を対象としています。

本募集要領に記載している申請分野①～⑤に関連する学術分野例・専門分野キーワード例を参考にするなど、視野を広げ申請を検討してください。

※研究計画の具体的な内容は、専門外の研究者から見ても十分理解できるように明確に分かりやすく記載してください。

### 【提案資格】

- ・博士後期課程在学者及び博士後期課程への進学を検討する博士前期課程在学者
  - ・過去に2回以上採択されていないこと。
- ※採択されることがない応募者と過去に採択されたことがある応募者との審査結果が同順位であった場合には、採択されたことがない応募者を優先的に採択する。

【表彰件数】金賞：1件程度、銀賞：2件程度、銅賞：5件程度、奨励賞：20件程度

### 【研究教育奨励経費】

表彰された課題について、表彰ランクにより当該学生の所属研究室へ研究教育奨励経費を支援する。

なお、研究教育奨励経費の用途の制限は設けませんが、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、所属研究室の管理・監督の下、適切な経費執行に努めてください。

（金賞：50万円、銀賞：40万円、銅賞：30万円、奨励賞：20万円）

※日本学術振興会特別研究員については、日本学術振興会以外からの資金援助に制限があるので、その範囲内の支援とする。

【支援期間】 令和2年4月1日～令和3年3月31日

## 3. 採択件数・配分日付等

- (1) 採択・表彰件数等については、予算の都合等により調整する場合がある。
- (2) 採択計画及び表彰課題に対する研究教育奨励経費は原則として令和2年4月1日付け配分とする。

## 4. 申請手続

- (1) 申請期限：令和2年7月6日（月）13時
- (2) 申請書類：所属部局事務部を通して以下の書類を電子データにて提出すること。
  - A) (様式1) 研究提案申請書【EXCEL】(様式2) 研究提案書【WORD】
  - B) (様式3) 申請登録書【EXCEL】※部局事務部担当作成

- (3) 申請書類の提出先及び問合せ先：  
エネルギー研究教育機構支援事務部門 <http://q-pit.kyushu-u.ac.jp/>  
E-Mail : [eneken@jimu.kyushu-u.ac.jp](mailto:eneken@jimu.kyushu-u.ac.jp)  
TEL : 092-802-6644 (内90-7196)

## 5. 採択された場合の条件等

### (1) 広報

学内外において研究経過及び研究成果を発表する場合は、本プログラムの支援を受けている旨を明記するなどして積極的に広報活動を行うこと。

また、本機構で開催するセミナー・シンポジウムにおいて、研究成果公開の取組（展示など）に積極的に参加すること。

なお、採択された者は、本機構が主催する各種イベント（九大エネルギーウィークなど）において、ポスター発表等（本年度のイベント等への参加形態は、新型コロナウイルスの感染状況を勘案しながら別途決定する。）を行うこと。

### (2) 日本学術振興会特別研究員への申請等

採択され申請資格を有する者は、次年度以降の日本学術振興会特別研究員へ応募すること。

## 6. 実績報告書等について

採択計画については、年度終了時に支出経費内訳、研究計画の進捗や研究成果等を所定の（様式4）実績報告書に記載のうえ、別途指示する期日までに提出するものとする。

また、研究教育奨励経費に係る（様式5）執行額調については部局事務部担当が作成し提出するものとする。

## 7. その他

本プログラムの支援により実施した研究の成果としての特許等の取扱いについては、九州大学知的財産取扱規則（平成16年度九大規則第93号）によることとする。

詳細については、学術研究・産学官連携本部のWEBページ

(<https://airimaq.kyushu-u.ac.jp/ja/teacher/invention.php>)を参照

## < 参考資料 >

### 分野①：エネルギーテクノロジーに関する研究

- ・関連する学術分野例：科学、工学、数学、化学、材料科学
- ・専門分野キーワード例：水素製造、水素貯蔵、水電解、燃料電池、電池、エネルギー貯蔵材料、エネルギー変換材料、太陽光発電/ソーラー材料

### 分野②：エネルギーシステムとマネジメントに関する研究

- ・関連する学術分野例：情報工学、システム工学、制御工学、経営工学、プロセスシステム工学、エネルギーシステム工学、化学システム工学、機械工学、電気工学、再生可能エネルギー利用システム、ハイブリッド再生可能エネルギーシステム
- ・専門分野キーワード例：データ解析、モデリング、システムインテグレーション、エネルギー貯蔵システム、地域エネルギーシステム、低炭素社会、技術経済評価

### 分野③：エネルギー由来の環境問題に関する研究

- ・関連する学術分野例 : 農学、環境学
- ・専門分野キーワード例 : バイオ由来エネルギー生産、温暖化対策

#### 分野④：エネルギー経済・社会・ポリシーに関する研究

- ・関連する学術分野例 : エネルギー経済学、資源経済学、環境経済学、社会学、エネルギー政策
- ・専門分野キーワード例 : スマートファーム、途上国におけるエネルギー、創・蓄・省エネルギー技術、分散型エネルギー社会

#### 分野⑤：その他エネルギー問題に関わる分野

- ・上記記載以外の学術分野等